

## 2020年11月1日 説教「ベニヤミンとの再会」

創世記 43章 26～34節

銀はあなた方の神が入れてくださったのでしょと、家の管理者に言われ驚いた兄弟達でした。彼らはヨセフ宅での昼食に招かれました。

### 1. 兄弟たちを前に (26～28節)

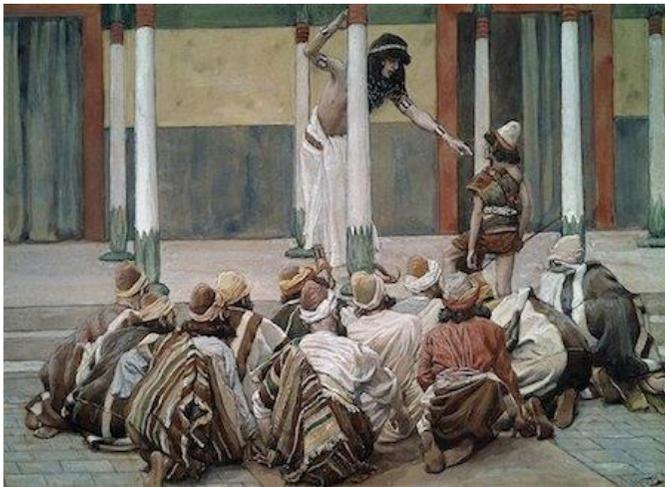
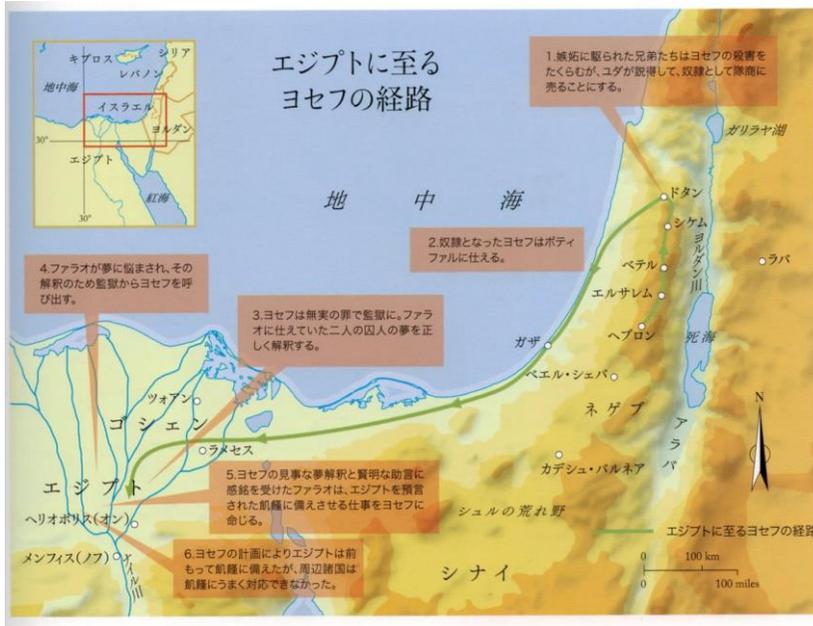
①贈り物を (26)「**ヨセフが家に帰ってきたとき、彼らは持って来た贈り物を家に持ち込み、地に伏して彼を拝んだ。**」宰相ヨセフの家で水を飲み、足を洗い、くつろいだ後、兄弟達はヨセフへの贈り物の準備をしていました。それは父ヤコブから託された物でもありました。いよいよ、ヨセフが帰ってきました。彼らは決めてあったように、贈り物を携えて、地に頭を擦り付けるようにして、ヨセフを拝しました。

②父親の安否 (27)「**ヨセフは彼らの安否を問うて言った。『あなたがたが先に話していた、あなたがたの年老いた父親は元気か。まだ生きているのか。』**」ヨセフは彼らに「遠方から再度、良く来られた。お元気か？」とでもエジプトの言葉で挨拶したことでしょう。その上で一番気になっている父ヤコブのことを尋ねました。「あなたがたの父親は元気か?」「まだ生きているのか?」と気づかれないように、様子を聞いたのです。父ヤコブはヨセフを格別にあつめたのです。ヨセフもその愛を忘れていません。その父のことは、以前からずっと心配でした。

③ひざまずいてふし拝み (28)「**彼らは答えた。『あなたのしもべ、私たちの父は元気で、まだ生きております。』そして、彼らはひざまずいて伏し拝んだ。**」すると兄弟達は答えます。「あなたのしもべ、私たちの父は元気です」と。父が宰相のしもべだと明言し、父が元気で、生きているというをはっきりと伝えました。ヨセフにとっては、うれしい報告だったでしょう。兄弟達はそういって、ただひざまずいて伏し拝むばかりでした。父からの、お達しだったのでしょ。ベニヤミンを連れて帰るためには、彼らは宰相の心証をよくしておかねばならなかったのです。

### 2. 弟なつかしさに (29～31節)

①末の弟 (29)「**ヨセフは目を上げ、同じ母の子である弟のベニヤミンを見て言った。『これがあなたがたが私に話した末の弟か。』そして言った。『我が子よ。神があなたを恵まれるように。』**」父ヤコブとラケルとの間に生まれた子はヨセフとベニヤミンだけです。ヨセフにすれば、特別に親しみがあることは言うまでもありません。そこで、あえてベニヤミンの方を見ながら、兄弟たちにベニヤミンであることを確認した上で、ベニヤミンに向かって「我が子よ」と呼び、「神があなたを恵まれるように」と祝福の言葉を伝えています。この時の「神」がアブラハム、イサク、ヤコブの神であることは言うまでもありません。しかし、兄弟達は誰もそれには気づいていなかったでしょう。



②胸が熱くなり (30)「ヨセフは弟なつかしさに胸が熱くなり、泣きたくなって、急いで奥の部屋に入って行って、そこで泣いた。」ヨセフは目の前の弟の姿を確かめながら、この 20 年の事がよみがえり、かつ父ヤコブとベニヤミンへの情で、胸が熱くなりました。そして、泣きたくなったのです。兄弟達と最初に再会した時も、彼は秘かに泣いています (42:24)。しかし、ベニヤミンと再会した今はそれにも増して感動したことでしょう。彼は奥の部屋に行って泣いたのです。

③自分を制して (31)「やがて、彼は顔を洗って出て来た。そして自分を制して、『食事を出せ』と言いつけた。」気づかれてはいけませんから、顔を洗ってから戻ってきました。その上で自制して、僕たちに準備させておいた食事を出すようにと命じたのです

### 3. ヨセフの家での (32~34 節)

①別に食事 (32)「それでヨセフにはヨセフにだけ、彼らには彼らにだけ、ヨセフと食事をともにするエジプト人はその者にだけ、それぞれ別に食事を出した。エジプト人はヘブル人とはいっしょに食事ができなかったからであった。」エジプト人は外国人が食物を汚すという、彼らの宗教的理由があったと思われまゝ。ヨセフは元々ヘブル人でしたが、エジプトの宰相ですからエジプト人扱いでした。そこで、ここではヨセフ用の食事、ヘブル人兄弟達用の食事、ヨセフの近くにいるエジプト人には彼ら用の食事が出されました。もともとこれより後、モーセの時代になると、律法によって、食べ物についても細かい規定がヘブル人にも与えられたことは、レビ記などにある通りです。

②年の順に (33)「彼らはヨセフの指図によって、年長者は年長の座に、年下の者は年下の座にすわらされたので、この人たちは互いに驚いた。」ここにあるように、次第に自らがヨセフであることをほのめかしています。つまり、ヨセフは部下に命じてヨセフの兄弟達を座らせるにあたって、彼らを年長順に並べていったのです。即ち、ルベン、シメオン、レビ、ユダ、ダン、ナフタリ、ガド、アシェル、イッサカル、ゼブルン、ベニヤミンの順です。人質であったシメオンもこの中にいたことは確かです。

③五倍も多く (34)「また、ヨセフの食卓から、彼らに分け前が分けられたが、ベニヤミンの分け前はほかのだれの分け前よりも五倍も多かった。彼らはヨセフとともに酒を飲み、酔いごちになった。」ヨセフの食事は豪華で料理数も多かったようで、その食卓の一部から兄弟達に分けられたのです。しかし、その中でもベニヤミンへの分け前は特別で他の兄弟達の五倍ほどでした。かつて父ヤコブがヨセフを特別扱いして、袖付きの長服を作ってやったこと (37:3) が思い出されます。ともあれ、兄弟達はヨセフの家で食事をたらふく食べ、酒を飲んで酔いごちになりました。兄弟達は少しずつ警戒心も解けて、ヨセ

フのもてなしに応じたのでした

《結論》ヨセフがヤコブの元にいた時に、彼は夢を見たのです。その一つは兄弟達が畑で束をたばねていると、ヨセフの束が立ち上がり、兄弟たちの束がヨセフの束の回りに来てお辞儀するというものでした。もう一つは、太陽と月と十一の星がヨセフを拜んでいるというものでした (37 章)。その夢を伝えると、兄達を激怒しました。父ヤコブもその夢について語ることを、自重するように申し渡すのでした。しかし、今朝の個所を見ると、その夢がまさに実現し、兄弟達はヨセフにひれ伏し、父については「あなた (ヨセフ) のしもべ」と言っているのです。そんなことから、主なる神は夢の中にすら働きかけ、その大いなる御手、ご計画というものを示し、実現させてくださったのです。かといって、今日私たちが見る夢というものを自分なりに解釈をつけたり、意味づけをし、神の語りかけだとすることには様々な問題があり、気を付けるべきです。

もう一つ、今朝の聖書箇所から学びたいのは、**ヨセフは弟なつかしさに胸が熱くなり (30)** とある部分です。ここに共通の血を受けた兄弟愛をみます。最近、「鬼滅の刃」というアニメーション映画が大ヒットしているというニュースをみます。私もインターネットから、それを見ましたが、そこには愛する家族を失い、唯一残った妹への愛情を注ぐという、家族愛がえがかれているという評判です。海外でも注目されているということですが、家族愛はどこの国においても、大きなテーマであるということがわかります。拉致家族の問題も、家族のことであるがゆえに、思想信条を越えて人々の同情が生まれてくるのでありましょ。今ここで、ヨセフは 20 年たっても、片時も忘れることのなかった父ヤコブと目の前にいるベニヤミンのことを想い、感情が高ぶっている様子がえがかれています。この再会の場面に触れて、私たちに与えられている家族への愛情に、主は関わってくださるということを知るのでした。

一方で、主イエス・キリストはもう一つの視点を家族について示しておられます。「わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません」(マタイ 10:37) と主イエスは言われるのです。十戒には「あなたの父と母を敬え」(出エジプト 20:12) とあり、どのように整合性を保つことができるのでしょうか。キリストが言われるのは、第一に主を愛することがくること、その上で家族を含めた隣人を愛することが来ることを教えておられます。主を第二、第三にすれば、家族の関係にも問題が生じやすいのです。キリストを見上げつつ、キリストにある教会の家族を大切にすることも重要です。「互いに愛し合いなさい」(ヨハネ 13:34) とあります。「心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ」(マタイ 22:37) を覚えつつ、家族への愛を注ぎ、またキリストにある家族とも祈り合うことが重要です。ベニヤミンとの再会の出来事を通して、主を第一に見上げながら歩んできたヨ

セフが、家族との再会という祝福をいただいていることから学びたいのです。